

博報堂グループ、アカデミアの研究シーズを起点とした
ベンチャー創出を支援するプログラム「Deeptech Ventures Pilot」開発
—第一弾として東京科学大学のスタートアップ・スタジオ「Tokyo Tech Startup Studio」に導入—

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸、以下博報堂）の研究機関「UNIVERSITY of CREATIVITY（以下 UoC）」と博報堂グループの株式会社 quantum（本社：東京都港区、代表取締役社長 共同 CEO：及部智仁、以下 quantum）は、博報堂の「研究デザインセンター（以下 RDC）」と協力し、学生や研究者の研究シーズを起点としたベンチャー創出を支援するプログラム「Deeptech Ventures Pilot（ディープテック ベンチャー パイロット）」を開発しました。今後、quantum が主体となり大学や研究機関、企業等への提供を開始します。第一弾として、東京科学大学イノベーションデザイン機構（以下「Id 機構」）のスタートアップ・スタジオ「Tokyo Tech Startup Studio」に導入いたしました。

世界的に注目を集めるディープテック領域において、日本には優れた科学技術の知見を持つ学生や研究者が数多くいる一方で、先進的な技術がビジネスに結びつきにくい課題を抱えています。こうした課題に対しては、国としての政策、科学技術、ビジネスの三要素をつなぐエコシステムの構築が大切です。

このような背景から、UoC における異分野を融合させながら社会インパクトを生み出す創造性と、RDC が探求している「生活者発想」による「未来洞察」の観点、quantum が培ってきたビジョン・プロトタイプングやインキュベーション・テクノロジー等、博報堂グループのノウハウを掛け合わせ、実践的な大学発スタートアップ創出プログラム「Deeptech Ventures Pilot」を開発しました。本プログラムは、アカデミアの科学技術を発想の起点とし、研究者だけでなく、企業、行政、ユーザーコミュニティ等のマルチレイヤー構造の課題を理解しながら、社会的にインパクトのある事業を創出する仕組みをデザインします。限られたステークホルダー同士で試験的に連携を実施し、検証を重ねつつ徐々にネットワークを拡大するアプローチである Minimum Viable Ecosystem（MVE）の設計により、エコシステム内の複数のプレイヤー（企業、組織、個人など）と共創する能力の育成を目指します。

導入第一弾として、東京科学大学 Id 機構のスタートアップ・スタジオ「Tokyo Tech Startup Studio」に参加した起業志望の修士・博士過程の学生を対象に、2024年9月からプログラムの提供を開始しました。独自のフレームワークや多様な有識者との対話によって、個人の知見や思考力が拡張され、生活者視点でさまざまな事業の種が生み出されています。

博報堂グループは今後も、生活者発想を起点として、大学や企業等との連携を模索しながら、社会に新しい価値を提案してまいります。

<参考情報>

■「Deeptech Ventures Pilot」について

・プログラムの流れ

- ① 初期動作としてのマルチレイヤーの構造の課題設定とシステムマップの作成
 - ② Policy（政策）、Science（科学技術）、Business（ビジネス）の三要素に向けた自己の世界認識を拡張するジャーニー（身体的探索リサーチ）
 - ③ 異分野ダイアログを通じた、科学技術で社会インパクトを起こすリアリティと道筋、未来視座の探索
 - (i) ディープテックを通じて社会インパクトを起こしている先端実践者
 - (ii) テクノロジー×未来生活を物語（ナラティブ）で描き出し自分ごと化・世の中ごと化している作家・クリエイター
 - (iii) 広告会社所属のテクノロジスト・クリエイター
- 上記三者の創造知を越領域融合して、技術で社会インパクトを起こすリアリティや道筋、未来視座獲得の方法を対象の学生とともにディスカッションするプロセス。
- ④ 異分野ダイアログでの学びと未来洞察ワークを衝突させるシステミックデザイン創発ワークショップ
 - ⑤ アカデミアの論文等をAIに学習させたインキュベーションテクノロジー「Leanmodels」によるディープテックスタートアップのビジネスモデル策定と事業計画作成の加速化
 - ⑥ 科学技術を可視化するビジョン・プロトタイピングとエコシステムデザイン

■Tokyo Tech Startup Studio について

大学発スタートアップに必要なものは「テクノロジー」のイノベーションではなく、「社会の変え方」のイノベーションであるという考えのもと、2024年度に東京科学大学（当時・東京工業大学）イノベーションデザイン機構が設立したスタートアップ・スタジオ型プログラムです。東京科学大学内から主にディープテック分野での有望なベンチャーを連続的に輩出することを目指しています。科学技術への強い探求心と高い能力を持つ東京科学大学の学生が、各方面の専門家や研究者とともに、ありたい社会の実現に向けて、課題を見つけ、解決する。そして、ユニコーンの可能性を秘める企業の創業を目指しています。

公式サイト：<https://www.idp.ori.titech.ac.jp/ttss/>

■UNIVERSITY of CREATIVITY (UoC) について

UoCは、「We are ALL born Creative. すべてのニンゲンは生まれながらにして創造的である。」を理念に掲げ、未来創造の技術としてのクリエイティビティを研究・開発・社会実験する専門機関です。AIやビッグデータが急速に普及する今こそ、創造性を人類最大の資本として捉え直し、新しい文明の地図を描くための「クリエイティビティの港」となることを目指しています。文理芸や産官学の垣根を超えて、多様なクリエイティビティの研究と実験を掛け合わせることで、世界の課題解決や新たな感動の源泉を生み出していきます。

公式サイト：<https://uoc.world/>

■博報堂 研究デザインセンターについて

2024年に設立された博報堂の研究開発組織です。傘下に、当社のフラッグシップ研究機関である「生活総合研究所」（1981年設立）と、クライアント企業の生活者発想を推進するための研究開発を行うことを目的に新設された「生活者発想技術研究所」（2024年9月設立）があり博報堂の強みである「生活者発想」の更なる進化を推進しています。さらに、生活者発想技術研究所のもとに、多彩な研究機能やプロジェクトが集ま

り、研究開発チームのコレクティブ=集合体を組成しています。

公式サイト：<https://hakuhodo-rdc.com/>

■quantum について

quantum は、クリエイティビティを軸にしたインキュベーション力で、新規事業開発、ベンチャークリエーション、ハンズオン投資によるグロース支援を行うスタートアップ・スタジオです。2016年の創業以来、100社を超える企業、大学等とインキュベーションを実践しています。これからも Venture Builders として、① 新規事業のインキュベーション、② ベンチャークリエーションとグロース支援、③ デザイン&エンジニアリングの3つの事業セグメントを重ね合わせて「世界を変えるインパクトのある新規事業の創造」に挑戦していきます。

公式サイト：<https://www.quantum.ne.jp>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 下田・大野 koho.mail@hakuhodo.co.jp

株式会社 quantum 広報 木村・尾形 info@quantum.ne.jp